

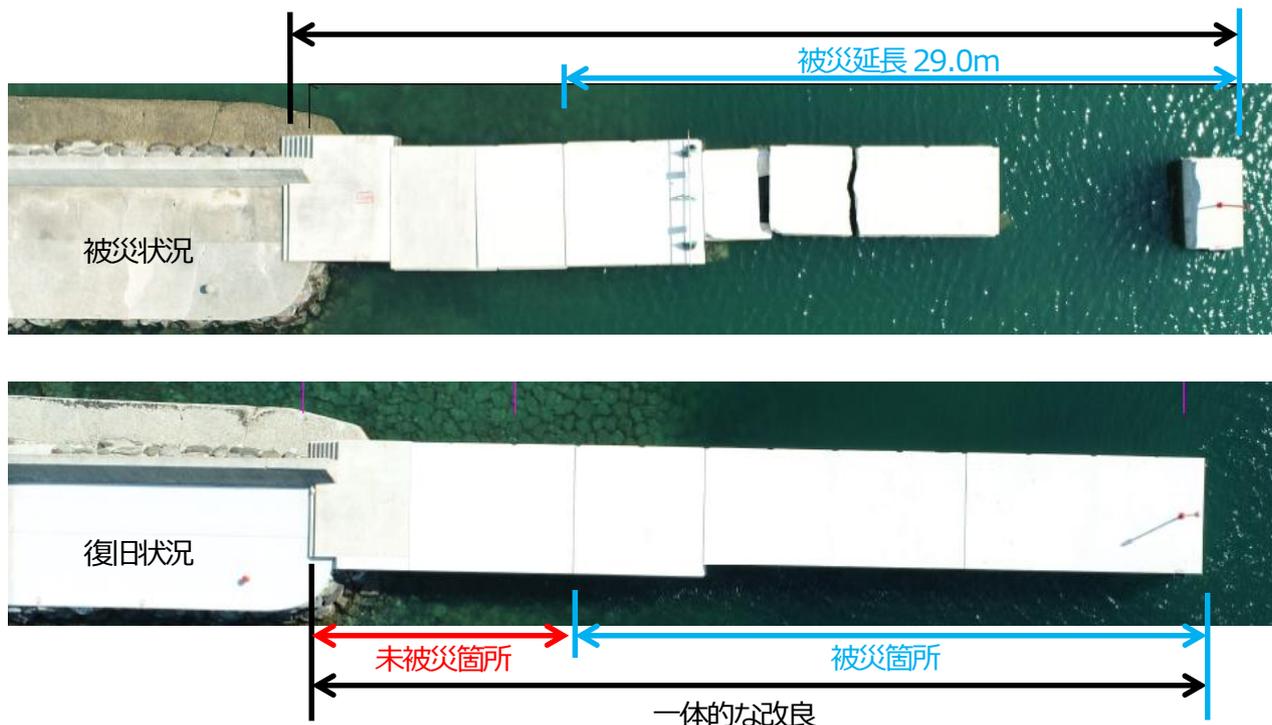
令和5年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

ふ り が な	かわたなせいぶぎょうみつごえぼうはていさいがいふっきゅうこうじにおけるかいりょうふっきゅう
1. 事業(施策)の名称	川棚西部漁港三越防波堤災害復旧工事における改良復旧
2. 事業(施策)実施期間	令和3年3月 25 日 ~ 令和4年3月 25 日
3. 事業費(工事費)	83 百万円
4. キーワード	防波堤 災害復旧 災害関連事業 新技術
5. 事業概要	<p>長崎県川棚町の川棚西部漁港の防波堤において、令和2年9月の台風10号の暴風・波浪等により施設延長の大部分(29m)が被災を受けた。そこで、被災波を推定しそれを復旧する設計対象波として災害復旧事業と併せて災害関連事業を活用することで、防波堤全体(40m)の一体的な強化を図るとともに、施工において新技術を活用しコストの縮減・施工の効率化を図った。</p>

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(b)新しい建設技術の導入・活用 () () () ()	() () () ()
アピールする 2)「秀でた成果」	(b)コストの縮減 (k)施工の合理化・効率化 () ()	() () () ()

7. 特にアピールしたい点	<p>台風 10 号による防波堤の被災要因を解析したところ、設計当時の設計波よりも被災波の波高が高かったことが判明したことから、被災波を対象として改良復旧を行い、防波堤全体の一体的な強化を図ることとした。</p> <p>改良復旧にあたっては、被災した 29m 区間と脆弱な残存施設 11m 区間において、ブロックが滑動、転倒、傾斜したことから、既存ブロックを再利用して撤去・再設置を行って法線をそろえて、港内側に腹付け工事を行うことで、粘り強い構造とした。</p> <p>港内側の腹付け施工にあたっては新技術である「残置型枠工法」を採用することで、従来の水中コンクリート施工と比較してコストの縮減・施工の効率化・安全性の向上を図った。なお、残置型枠工法は、陸上での大規模な型枠の組み立てや施工後の撤去作業が不要となるほか、海中部での閉鎖作業空間もないことから潜水士の安全性が格段に向上するなどのメリットがある。</p>
---------------	---

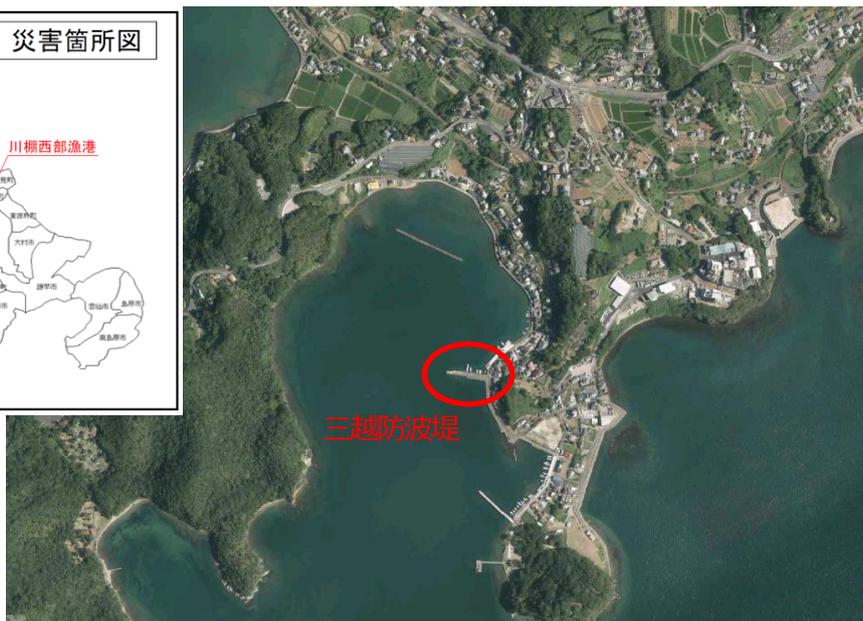
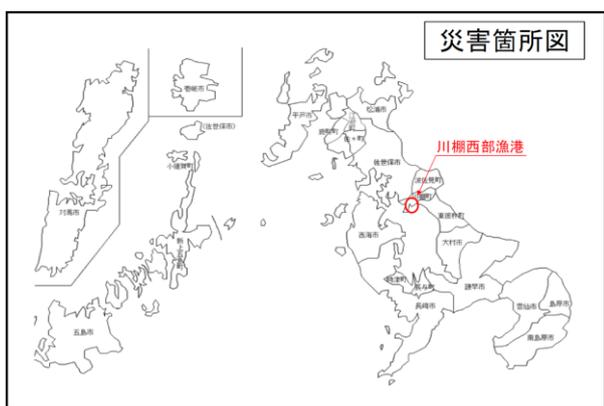
8. 事業を代表する写真及びキャプション



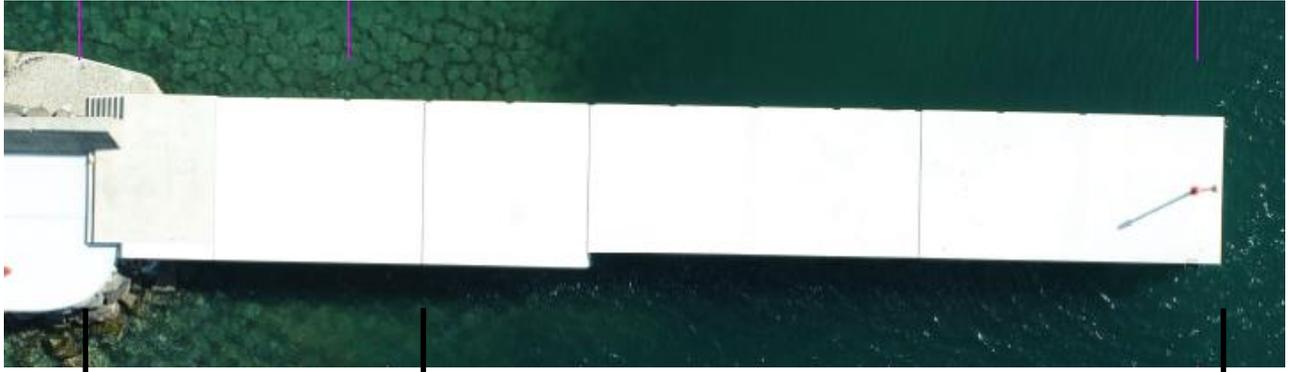
9. 事業内容・添付資料

川棚西部漁港は長崎県東彼杵郡川棚町にある第1種漁港であり、川棚町における唯一の漁港である。三越防波堤は平成26年に整備後、平成30年7月の台風7号にて施設延長の大部分が滑動・転倒等の被災を受け、災害復旧工事により原型復旧していたが、令和2年9月の台風10号により再び同様の被災が生じた。

そこで、再度災害防止のために災害復旧事業と併せて災害関連事業を活用することで、被災箇所と未被災箇所を一体的に改良し、施設全体の一体的な強化を図った。さらにその際に新技術である「残置型枠工法」を採用することでコストの縮減・施工の効率化を図った。



9. 事業内容・添付資料



← 未被災区間 11.0m

→ 被災区間 29.0m

災害関連事業による改良

災害復旧事業による改良復旧

